

園番号	園名
711	神功こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 「育てたい子ども像」について職員間で共有し、それに向けた援助や環境構成を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに学年間で「育てたい子ども像」をもとにした「大切にしたいかかわり」について具体的に話し合い、目に留まる場所に年齢毎の「大切にしたいかかわり」を掲示しておくことで、職員間の思いを共有し常に意識を持ち続けると共に、学期毎に振り返り確認し合う機会を持つことができた。 夏期休業中に「目指す子ども像」をもとに1学期を振り返り、具体的な子どもの姿を振り返る時間を持ち、2学期の保育に繋げることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係者、保護者にも取組内容を示し、評価を得た。 職員間で実践について具体的に検討し保育の見直しを図る機会をもっている。 「でいあシートやドキュメンテーション」についての保護者アンケートを実施し、評価した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「育てたい子ども像」の具体的な関わり等は、今後も年度初めに職員間で共有し、保育への思いを共通認識できるように続けていきたい。様々な保育観や働き方があるが、引き続き具体的な指標をもって保育できるように、短時間でも、全職員が同じテーマで話す機会を大切にすることを工夫していきたい。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 「育てたい子ども像」を念頭に置きながら計画を立案し、子ども主体の行事を検討する。 行事に向けた取組内容、進め方の検討と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にドキュメンテーションを作成し、作成時に職員間で共有、話し合いをして、子どもの発達理解、保育内容、指導計画を見直す手立ての一つとして活用できた。 園内公開保育研修会を各クラス年1回実施し、保育者の悩みや視点から語り合い、協議方法をその都度検討して実施し、保育内容の振り返りや指導方法の改善につなげることができた。 論文作成から発達を捉えて実践の振り返りを深め、さらなる子ども理解に繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> エピソード研修について前期に、アンケートを実施し、保育者の自身の振り返りを行い学びを自己確認した。 後期にはエピソードをもとにした協議内容を取り入れ、エピソード内容を検討するのに新たな視点で協議する機会をもった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育公開を通して保育の悩みを解消し、保育内容の改善への手立てや、個々の職員の子どもの理解、発達理解にもつながることから、職員間で多様な意見ができるよう、引き続き、研修体制への工夫や討議方法を考えていく必要がある。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 「育てたい子ども像」を念頭に置きながら計画を立案し、子ども主体の行事を検討する。 行事に向けた取組内容、進め方の検討と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 行事のねらいや内容について職員間で話し合い、子どもにさせたい経験を踏まえて行事内容を検討しながら実施した結果、取り組み方の見直し、新たな改善点からの実施にも繋がっていくことができた。 当日までの期日、担当者を会議で決定し、準備、役割分担等行いながら、計画的に進めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いや考えを聞き取ることで、子どもが主体的に活動するようになった。 担当者を決めたことで各行事とも計画や準備がスムーズに行われていた。経過についても無理なく取り組むことができていた。 コードモンアンケート機能やポストイットを使用して保護者からの意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の内容については、子どもの主体的な活動になるよう、都度見直し、話し合いを重ねながら、実施方法等を考えていく。 保護者アンケートの結果を踏まえ、参考にしながら、内容を考えていく。 今後も各保育者が、時期や内容等に見通しをもち、計画性を持って実行できるようにしていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 「育てたい子ども像」の明確化と具体的な実践内容の検討 子どもの人権を尊重した言葉掛けや援助方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 不適切保育について、職員間で考え方や行動の見直しを定期的に行ったり、研修、会議等で資料を配布したりして、職員の人権意識の向上や子どもの人権尊重に対する意識につながった。 人事考課で各自ので取り組みを目標化し、実践していく取組を進める事ができた。 肯定的な捉え、声掛けについて、研修で取り上げたり助言しながら促しや意識付けを行いながら関わりを振り返る機会を持つ事ができた。 衝立、カーテン等でプライベートゾーンを確保し、年齢や発達に応じたかかわりで着替えやおむつ交換などできるようにした。 人権教育に関する報告を通して、実践や研究取組が人権教育に繋がっていることを再認識できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎にクラス運営について、反省、評価を行う。 子どもの人権を尊重し、年齢や発達を顧慮しながら一人一人思いに寄り添った援助を意識するようになった。また、園内の研修を通して子どもの思いを見取る力の向上を図る。 各期の人事考課により各自評価、振り返りを行う。個々にチェックリストの作成や既存のものを活用するなどの意識が広がりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権について、社会の状況も踏まえながら、職員の人権意識を高められるように研修企画や参加などを促していく。 日常的な職員の様子を把握しながら、日々の関わりの中で相互に声をかけ合える関係づくりを行っていく必要がある。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で園児の様子を共有し、懇談会、たより等を通して家庭と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の様子をドキュメンテーションやでいあシートで発信するとともに懇談会（学級、個人）やアンケートを通して、保護者から意見を聞き取る。また、たより等、月毎の配信を通して、啓発、連携を行った。 保育の取組経過の配信や、発信方法、内容を工夫して、保護者に教育保育をわかりやすく、伝わりやすいようにして理解に繋げるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートや懇談会で保護者からの意見を聞く。 子どもの行動や状態、言動に留意するとともに、職員全体で共有し、迅速且つ適切な対応ができる体制作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常のかつ機会毎に充実した教育保育内容の工夫や実践が発信ができるような工夫に努める。また、発信だけでなく、保護者からの反応や意見を聞く方法を工夫していく必要がある。 育児に不安を抱えつつ、一人で悩んでいる保護者が少なくない現状なので、家庭的背景を把握し、一人一人の子どもの保護者の心のサインに気づき、寄り添いながら支える存在となるよう、配慮必要がある。
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	対処方針や指導計画が明確である	<ul style="list-style-type: none"> 気になる子どもの様子や行動は記録を取って確認できるようにした。保護者からの聞き取りや、必要な家庭に定期的に家庭訪問を行った。 	B		
			日頃より実態把握・早期発見に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の情報交換、共有とともに、日常的な打ち合わせだけでなく、事象に応じて打ち合わせの時間を設けることで、早期対応に繋げ、園全体でも対応できるようにした。 	A		
			各学級の状況を園組織として共有できている	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域と連携できている 	A		
保護者や地域と連携できている			<ul style="list-style-type: none"> 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 保護者や地域、関係機関との連携を密にし、適宜情報を共有しながら個々に応じた対応を行った。 	A			
(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関との連携の強化 該当園児に対する支援計画の作成をする。 個人懇談会を実施し、保護者との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談や教育相談を通して関係機関との連携を図った。 特別支援担当職員の研修参加の促し、会議等を実施し、現状や思いを共有し、悩みの改善を図った。 個別の支援計画を作成し、個人記録を取ってクラスや学年に関わる職員間で共有し、課題を明確にして必要な支援方法を実践した。 定期的な懇談会以外に、必要に応じて懇談を実施したり日頃の声掛けを行い、保護者との連携を図った。そのことで、就学や療育について保護者の悩みに寄り添い、共に考えたり、共有したりして保護者をサポートしながら前向きな気持ちで進めていく事ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにより、保育者の関わりについて保護者から意見を求めた。 特別支援コーディネーターと連携し、発達の実態を把握しつつ、一人一人について話し合いながら支援方法を組み立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援についての研修参加や園内での研修実施を年間を通して重点的に行っていく。 担任と特別支援担当者の連携のための支援会議の時間を引き続き確保し、クラスに関わる職員との情報共有ができるように園運営に位置づけていく。 日頃から保護者や職員とのコミュニケーションを大切に傾聴していく。 	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容						
	③ 指導方法の工夫改善						
	④ 家庭との連携						
	⑤ 関係機関との連携						

園番号	園名
711	神功こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果		評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・業務内容の見直しと業務分担の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等を踏まえて保育内容を見直し、業務の効率化や分担を進めた結果、業務分担や職員の業務効率、業務改善への意識が定着している。時間外勤務削減への意識の定着や実施を継続することができている。 ・会議案件を見直し、事前に周知し、討議する内容を検討することで、時間短縮ができた。 ・会議案件を見直し、事前に周知し、討議する内容を検討することで、時間短縮ができた。 ・正規職員、会計年度職員と対話の機会を持ち、職員の意向等を聞き取り、職員育成に取り入れた。 ・保護者アンケートを実施し、保護者の意見を把握し、参考に行事内容等について検討することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等で、行事や保育内容について随時見直し、ねらいを明確にする中で削減できる業務が見え、分担制の定着による時間外勤務の削減の目標の達成や、会議時間等の短縮への取組や紙面共有等の工夫に繋がった。 ・職員との対話を通して、職員の思いや意向や強味を把握し、業務担当の振り分けを行った。職員一人ひとりが自分の担当、役割を意識して行動するようになっていく。 ・保護者に行事後の感想を聞き、取り組み内容の評価反省の参考とした。また、園の取組として重点的な所や質問内容の項目を見直しして実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に業務の見直しを行い、業務改善を行っていく。その際は、「子どもを中心に据えて、何を大切にするのか」という視点で削減してよいものとしてはいけないものを見極める。 ・会議の効率化や内容の共有方法等、園での連携、につながるよう引き続き検討していく。 	
		② 園経営目標・方針	・時間外勤務削減とノー残業デーの実施		A			
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識	・会議内容検討と時間短縮		B			
		④ 園務分掌等の連携	・職員面談の実施		A			
		⑤ 会議の運営と位置づけ	・保護者アンケート（年1回、行事毎）の内容の見直しと実施		A			
		⑥ 会議の結果			B			
		⑦ 職場の人間関係			A			
		⑧ 園評価の実施			A			
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	・各保育者 年1回以上の園内公開保育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の公開保育では、保育者の悩みに応じた内容で、職員間で討議を行った。多様な意見があることで、自らの関わりや環境設定を見直し、改善につなげることができた。また、参観した保育者は、年齢による発達や援助の違いに気付くことができた。 ・「でいあシート」の項目も参考に、子どもの育ちや学びがより分かりやすく保護者や地域に伝わるように工夫し、ドキュメンテーションとしての記録の内容の充実を図った。 ・毎月にエピソード研修を実施し、研究主題を通して子どもの思いを深く見取り、個々の子どもの育ちや発達年齢を捉えて語り合うことで、保育者の援助や環境の大切さを各保育者が再確認し、日々の保育の中で意識向上することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考課面談で研修ノートを利用して職員の研修受講状況を確認した。 ・HPや掲示、配布等をして園内外に保育内容を発信して、保護者や地域の方々に教育保育内容及び子ども理解を深めてもらえるような記録の作成に努めた。 ・毎月のエピソード研修では、研究テーマの視点を絞って発達年齢をふまえた子どもの姿を捉えることで、各保育者が語り合うことの意味やそれが子ども理解につながっているという実感をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育者が目的をもち、必要性を感じながら研修の機会をもち、各職員の育成に繋がるような方法を引き続き検討していく。（年度はじめに検討） ・子どもの様子の記述に留まらず、育ちや学びの子ども理解を深められるような内容にするため研修等で検討していく。 ・期毎のエピソード研修では、乳幼児担当保育者が交流し、全員のエピソードを毎回用いて研修したり、テーマを絞って研修ができるような方法や時間等を工夫していく必要がある。 ・受講した園外研修の職員間での共有方法の検討、工夫が必要である。 	
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施	・毎月のエピソード研修と期毎の「でいあシート」研修の実施		A			
③ 園外の研修への積極的参加		・主題に基づき園内研修を進め、研究を進める。	A					
④ 園外研修内容の共有		・研修内容に応じた協議方法の検討と実施	B					
⑤ 研修成果の普及			A					
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施と見直し（引き渡し訓練の実施） ・防災訓練の実施 ・不審者対応マニュアルの作成検討 ・安全管理マニュアル等を作成、職員間で共有し、開園時間内の子どもの安全を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計画を立案し、各種の避難訓練を実施することができた。大規模災害時の訓練として、保護者とともに引き渡し訓練を実施することができた。 ・地域の消防団による防災訓練を実施した。実際に消火訓練を見たり、消防団からの指導を通して、子どもたちの防災意識も高まった。 ・不審者対応マニュアルを実践し修正するに至った。 ・プール、水遊びにおける安全に関する研修を実施し事故防止への意識が高まった。また、プールの見守りでは、地域コーディネーター、ボランティアの協力体制もあり、安心して実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月訓練実施後に反省、評価を行い、想定毎の課題点を洗い出した。 ・引き渡し訓練では、保護者とともに訓練を実施することができ、緊急時に対する保護者の意識の啓発にもつなげることができた。 ・不審者対応における職員の役割、連携を明確化できた。 ・地域の方との連携を図り、安全面での支援があることで、保護者の安心感にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難方法や準備物など、保育時間毎に必要なものを想定し、適宜中身を確認、点検して用意しておく必要がある。 ・地域と協働して進める防災教室を実施し、園児の防災意識を高めていく。 ・不審者対応におけるマニュアルが機能するか今後も実践を重ねて、修正していく。 		
	② 防災計画の立案			B				
	③ 危機管理体制の整備			B				
	④ 安全指導の工夫改善			A				
	⑤ 家庭との連携			B				
	⑥ 関係機関との連携			B				
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の給食会議、アレルギー会議を実施 ・子どもの生活リズム、健康状態等を職員間で連絡し、個々の子どもに応じた1日の生活が送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応児については、毎日朝礼で確認し、クラス連絡ノートを活用して全職員周知を徹底した。 ・給食会議をその都度調理員と連携し、子どもが喜んで食べることができるよう、食材や提供方法について話し合った。 ・子どもの健康管理に留意して保育内容を工夫したり、保護者との連携を密にとったりして、子ども達が安心して園生活が送れる環境を、適宜確認し、職員間で共有して環境を整えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日食材の確認をすることで、全職員が意識し、誤食に対する危機感が高まった。また、新マニュアルの研修や園内での再確認の機会も意識づけの機会となった。 ・喫食状況、喫食量を確認し、給食会議で職員間で共有した。 ・日々子どもや家庭と丁寧に関わってきたことで子どもの些細な変化に気づき、体調の急変等にも敏速に対応することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル等を活用し多様なアレルギー食材に対する知識や配膳時の確認対応を適宜確認し、危機管理意識をさらに徹底する。 ・「食べる」ことへの喜びを感じられるように環境作りをおこなったり、保育者の声かけを行ったりしていく。 ・安全管理、衛生管理についても定期的に確認等の機会を持ち意識の保持に努める必要がある。 		
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			A				
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			A				
	④ 関係機関との連携			A				
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理			A				
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドキュメンテーション」「でいあシート」を活用した保護者、地域、小学校への情報発信 ・ホームページに地域との連携の項目を作成し、地域保護者へ発信する。 ・11月、2月の学校評議員で子どもの参観と共に、学校関係者評価を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の「ドキュメンテーション」や期毎の「でいあシート」は保護者懇談会で活用し、ホームページ、玄関掲示で発信した。地域、小学校へは、地域の会議を通して紙面の配布をした。保護者や地域に保育内容や保育者の思いを知ってもらいやすい機会となった。 ・中学校区別研修では、子どもの姿から学びや育ちを意見交流する機会を持った。年長児の小学校交流、訪問の機会を増やしたりその記録の作成、小学校との共有を行った。 ・「地域の方と一緒に」への取組の発信の機会を増やし、地域の方と連携しながら子どもを育てているという理解をより得られている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーター会議で地域の方に配布し、意見聴取した。保護者にはアンケートを実施し、見やすさ、回数等について意見を聴取した。 ・中学校区別研修で相互見学をし意見交流の機会を持つことができた。年長児の小学校訪問の機会も増え、連携や育ちの見取り、繋がり易さに繋がった。 ・学校評議員の方に子どもの姿を知らせ、保育内容等園の取組への意見を聴取した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「ドキュメンテーション」「でいあシート」を利用して園の保育・教育を発信していく。また、地域へ出かける機会を持ち、地域の方が園をより身近に感じてもらえるようにしていく。 ・小学校との連携では計画をともに作成し、小学校に出向く機会や職員間の連携、子ども同士の交流が進むよう、引き続き機会をつくる。 		
	② 園(保育)公開			A				
	③ 小学校との接続・連携			B				
	④ こ幼保との連携			B				
	⑤ P T A・保護者会の活性化			B				
	⑥ 地域教育協議会との連携			A				
	⑦ 学校関係者評価の実施			B				
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の遊具点検の実施 ・施設点検を行い、危険箇所や改善箇所の把握を行い、修繕が必要な場合は関係機関に要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、各担任による遊具点検と随時施設を点検したことで、危険箇所を発見し、修繕を関係機関に依頼したり改善したりして、子ども達が安全・安心して生活できる環境作りを行った。 ・事故報告書の改善点について、具体的検討と職員間の共有を徹底した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や園庭の危険箇所が減り、遊具による大きな怪我にも発展せず、回数も減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検日や係を決めるなどして、定期的な点検を行う。 ・適宜、状況や状態を共有、検討して対応するなど、危機管理意識を持って実践できるようにする。 		
	② 施設設備の有効利用			B				
	③ 施設設備の管理			B				
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラ管理簿の作成と管理 ・園児の個人情報の保管を徹底して行う。 ・情報機器についての研修に参加し職員の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラ管理簿による管理を行い、データ移行、保管についても徹底することができた。 ・個人情報扱う書類については、引き続き保管場所を決め、施錠を行った。また、健康観察等の個人情報の観点で見直し記入方法や場所を変更して、取り扱うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・管理簿のチェックを行い、実施の状況を確認する。 ・個人情報の取り扱いについて、全職員で確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の観点から、データ管理、書類等、その都度既存の方法でよいのかを職員間で確認し、見直しを行い、解決していく。 		
	② 公文書の作成			B				
	③ 個人情報の管理・保護			A				
	④ 情報の収集			B				
	⑤ 電子媒体の管理			A				